

平成29年度

東部地区社会教育関係委員・職員研修会

平成30年1月25日（木） 吉川市中央公民館 ホール

本研修会は、東部地区各市町社会教育関係委員及び社会教育担当職員等を対象に実施する研修会です。研究テーマをもとに、各市町の実践発表や協議等を通して、社会教育関係者としての活動の在り方を探り、今後の社会教育の充実に資することを目的として実施しています。



今年度は、153名が参加し、貴重な実践発表と活発な意見交換が行われ、生涯学習・社会教育の充実・発展の契機となりました。

今年度は、153名が参加し、貴重な実践発表と活発な意見交換が行われ、生涯学習・社会教育の充実・発展の契機となりました。

研究テーマ

学びの循環のある地域社会について

講演

演題：「いま、社会教育にできること
～「学び」と「つながり」の地域社会に向けて～
講師：文教大学学園 理事長 野島 正也 氏

○課題としての「人生100年」

- ・「人生80年といわれる今日」→「人生100年時代を見据えて…」
- ・働き方・生き方のシフト、生活基盤としてのコミュニティの創生へ。
- ・コミュニティ維持・発展の決め手は地域団体。



○「人生100年時代」の生涯学習

- ・生涯学習をとおして、地域が抱える課題の解決、新たな縁・絆の構築。
- ・高齢者は社会から支えられる存在ではなく、地域が抱える課題を解決する「地域社会の主演」として活躍できる環境の整備を。

○学校と地域の連携

- ・住民、保護者、団体などが学校支援ボランティアとして組織的に活動。埼玉県では、独自に「学校応援団」として全県的に展開。
- ・学校支援活動を通じたまちづくりに対する社会教育主事への期待。

○社会教育関係委員・職員への期待

- ・社会的多様性の観点から新しい「地域縁」構築に主体的に取り組む。
- ・地域での学びの成果を活用し「学びの循環」を広める。
- ・地域協働を念頭に、新しい「地域縁」のための機会の仕掛けを。



○おわりに

- ・人々は地域のつながりの中で、もっと元気になれる。
- ・人々の生涯を通じて、切れ目なく質の高い「学び」の環境を用意する。

実践発表

久喜市「放課後子ども教室と地域コミュニティづくり」

(概要)

- ・子供を中心として、人づくり・地域づくりが進む。子供が地域づくりのキーパーソンである。
- ・「子供が育つ・地域が育つ」ことが、新しい繋がり・新しい地域コミュニティに発展する。
- ・学校では学べないことが期待感・ワクワク感となり、興味関心・意欲へとつながる。



三郷市「学校・家庭・地域がつながる元気なPTA活動」

(概要)

- ・地域一体となった教育環境、交流の輪の広がり、教わる者も教える者も自信が芽生える。
- ・親子で学ぶことで家庭・地域に還元、経験が次に活かされていく。
- ・活躍の場を自分たちで探し、広げていく。できたつながりをゆくゆくは、防災上の相互協力へ。自助から共助へ。



協議のまとめ

Q：(久喜市) 子供たちの参加率をあげるための工夫は。

A：事前に講座のプレゼンテーションを行った。子供たちの仲間づくりにつながる、と保護者の理解も得られ、参加者がどんどん増えていった。

Q：(三郷市) 活動が負担とならないようにするための手立ては。

A：できる人が、できることを、できる範囲でやっていこう、という



声かけを常に心がけている。



指導助言

《久喜市の発表について》

社会教育委員が放課後子ども教室を舞台として、自ら動き、人間関係を作りながらみんなで事業を進めている。これからもまだまだ伸びる事業であり、素晴らしい活動である。

《三郷市の発表について》

活動に関われる方々が見て学ぶ、やって学ぶ、そして教えて学ぶ、というものが社会教育の基本であり、この考え方がしっかりと、そして上手に活用されている取組である。

成果と課題

本年度は、研究テーマ「学びの循環のある地域社会について」の2年目であり、講演・実践発表等を通して、社会教育を更に充実させるための有効な手立て、関係委員等の資質向上を図る貴重な研修となった。

社会に積極的に参加する地域住民の活動を支援するには、社会教育に携わる関係委員・職員が自らのスキルを向上させることがとても重要である。社会から期待される役割を果たしていくためにも、今後も引き続き研修の充実を図っていくことが必要である。